

専門店御用達

シモジマ1号店、馬喰横山店!!

創業100周年の『シモジマ』 戦後の成長は馬喰横山店から始まった

問屋街の成長を支えた

シモジマ（本社東京 下島和光社長）は今年、創業100周年を迎える。1920年（大正9年）に創業した。創業100周年を迎える小売店の大きな力と

「手に入らない物はない」と言える。扱っている商品は紙製品や包装資材、店舗用品など約10万アイテム。馬喰横山店ではその中から約2万3000アイテムをセレクトし、名入れにも対応している。アブリ会員になれば様々な特典もある。

馬喰横山店は戦後間もない47年（昭和22年）にシモジマ1号店として創業した。横山町問屋街では49年（昭和24年）に繊維品が統制解除になり、横山町大通り奉仕会（現横山町奉仕会）が約10年間のブランクを経て復活。以て、全国の小売店が訪れる日本最大級の問屋街に成長した。同店では年間でも最大のイベントだ。ショッパードはもとより、リボ

横山町問屋街に仕入れに訪れる専門店にとつて強い味方が「シモジマ馬喰横山店」だ。知らないショッポナーはいない。地下1階から地上5階の売り場には商売を手助けしてくれるショッパードやレジ袋、文具や事務用品、着物の多当紙、スーツ用カバーなどもある。「手に入らない物はない」と言える。扱っている商品は紙製品や包装資材、店舗用品など約10万アイテム。馬喰横山店ではその中から約2万3000アイテムをセレクトし、名入れにも対応している。アブリ会員になれば様々な特典もある。



創業した当時の店舗（上）と現在のシモジマ馬喰横山店
東京都中央区日本橋横山町5-1 ☎ 03-3661-8355

環境問題にも積極的

この間、同社が進めてきたのが環境問題に対する取り組みだ。7月からレジ袋有料化が始まった。バイオマス成分（植物由来原料）が25%以上配合、厚みが50μ（ミクロン）以上がその対象外になる。馬喰横山店はこれまでに無地、カラーを含めて約200種類のレジ袋を販売してきたが、その3割をバイオマス原料製品に切り替えている。また、厚さ50μ以上の袋に貼付できるシールも販売している。一方、新型コロナウイルス

やタグなどのプレゼント用のラッピンググッズが何でも揃う。「包装資材はコミュニケーションツール」と同社。店の個性と特徴をどう表現していくかでお客様の満足度は大きく異なってくるだろう。店頭表現の強い味方だ。

そこで提案しているのがエコ素材のパッケージ。自生する竹やトウモロコシなど土に還る植物由来の原料の容器を提案している。

紙やプラスチックな

地球環境への負荷は大きく、それら商品を扱う企業として地球環境に配慮した姿勢を強く打ち出している。シモジマは時代とともに進化を続ける企業だ。社会に貢献を何よりも大事にしている。馬喰横山店は問屋街を訪れる人々に自社商品を通じてメッセージを送る。

イルスの感染拡大によつて小売りや飲食店の販売は大きく変わった。ネットでの販売が伸び、配送用パッケージが大幅に伸びた。飲食店では営業できない期間にテイクアウトを行う店が増えた。馬喰横山店でも「飲食店のテイクアウト用容器が

大きく伸びた」と言う。

「Seasonal Collection」を発行して、季節のイベントグッズを紹介している



新型コロナウイルスに負けてたまるか！

新型コロナウイルスに負けてたまるか！